

展覧会

もちながただひと
持永只仁
人形アニメーション作家

Tadahito Mochinaga, Puppet Animation Filmmaker

2017年5月13日(土) — 9月10日(日)

東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室 (7階)



**中国の動画界を育て、若きティム・バートンも魅了した、
日本の人形アニメーションの祖**

日本に国産アニメーション映画が誕生して一世紀を迎える 2017 年は、その先駆者たちの足跡をたどるまたとない機会です。切り絵、セル、影絵といった技法を開拓した数々の作家が現われた中で、人形アニメーションという新分野を切り拓いたのが **持永只仁 (1919-1999)** です。

東京に生まれ、佐賀や中国・長春で育った持永は 1939 年に芸術映画社に入社、瀬尾光世のもとでセル・アニメーションの修業を積み、『アリチャン』(1941 年) では日本初の多層式アニメーション撮影台を開発しました。中国に渡った 1945 年に終戦となり、以降は新生中国の撮影所設立に力を尽くすとともにアニメーションの製作を指導、後の中国動画界をリードする多くの人材を育てています。1953 年の帰国後は人形映画製作所を率いて『ちびくろ・さんぼのどらたいじ』(1956 年) などの名作を送り出し、またその後『ルドルフ 赤鼻のトナカイ』(1964 年) などアメリカのテレビ・劇場向け作品に携わります。とりわけ『怪物の狂宴』(1967 年) は、少年時代のティム・バートン監督にも強い印象を与えました。



『ちびくろ・さんぼのどらたいじ』演出中の持永

日中両国における人形アニメーションの創始者であり、アメリカの子どもたちも魅了した持永は、日本のアニメーション史においても独自の国際性を持つ存在です。この展覧会では、持永家で長く保管されてきた人形たちや製作資料、さらに写真や作品映像も交えながら、卓越したクリエイターであり優れた教育者でもあったその生涯に迫ります。また長い時を超え、弟子の川本喜八郎らが造形した愛らしい人形たちにも出会える機会となるでしょう。

略歴

持永只仁（もちなが ただひと）1919年3月3日－1999年4月1日



- 1919年 東京に生まれ、中国・長春や佐賀県で育つ
- 1938年 日本美術学校図案応用科を卒業
- 1939年 芸術映画社に入社、瀬尾光世のもとでアニメーション制作に従事
- 1945年 満洲映画協会に入社、敗戦後も中国に残り、新設の東北電影製片廠（現・長春電影製片廠）で教育宣伝映画製作のかたわら映画技術者を養成
- 1950年 上海電影製片廠（現・上海美術電影製片廠）の美術片組（アニメーション部門）創立に参画、人形アニメーションの研鑽を積む
- 1953年 8年ぶりに帰国
- 1955年 東京に人形映画製作所を設立
- 1956年 人形アニメーション第1作『瓜子姫とあまのじゃく』を完成、同年の『ちびくろ・さんぼのとらたいじ』は1958年のバンクーバー国際映画祭で児童映画部門最高賞を受賞
- 1960年 MOMプロダクションを設立、アメリカから作品製作を受注
- 1967年 MOMプロダクションを退社し、中国通信社でニュース映画の製作に携わる
- 1979年 再び中国で後進のアニメーション技術者の指導にあたる
- 1985年 北京電影学院で一年間アニメーション製作の教鞭を取る
- 1992年 第4回広島国際アニメーションフェスティバルで国際審査員を務める
- 1999年 逝去、享年80歳

展覧会の構成

（出品数：約350点）

- 第1章 アニメーションへの志
- 第2章 新生中国のために
- 第3章 国産人形アニメーションの礎
- 第4章 アメリカ・中国・日本－アニメーション交流の懸け橋



本展のみどころ

■国産人形アニメーションの祖であり、中国アニメーションの指導者、さらに受注制作作品がアメリカの観客にも支持された持永只仁のダイナミックな生涯と業績を一望できます。

■国内作品を中心に、持永がアニメートした動物や人物などの愛らしい人形を一挙に公開します。弟子だった若かりし川本喜八郎の作った人形も多数。

サル、トラ、タヌキ、ペンギン、キツネなど



■セルアニメーションとはまったく異なる、持永らが編み出したストップモーション・アニメーション独自の撮影方法を解説します。

■アーティストとしてだけでなく、卓越した動画技術の指導者としての持永、国際アニメーション交流の担い手としての持永にも着目します。

■持永の薫陶を受けた北京電影学院のアニメーション関係者が来日、特別トークイベントを催します。また、持永作品の上映企画も開催します。

展覧会の関連イベント

* 詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

★特別イベント

1970年代末から、北京電影学院で持永の薫陶を受けた中国のアニメーション関係者が来日、師・方明（ファンミン：持永の中国名）の思い出を語ります。

8月12日（土）14時～ 中国のアニメーションと持永只仁

- ゲスト** 孫立軍氏（北京電影学院副院長）
李剣平氏（北京電影学院动画学院院长）
- 聞き手** 小出正志氏（東京造形大学教授、日本アニメーション学会会長）
和田敏克氏（東京造形大学准教授、アニメーション作家）



持永による
北京電影学院「动画講義」テキスト（1985年）

トークイベント

■5月27日（土）持永只仁—その国際性

小野耕世氏（映画・漫画評論家） & 持永^{のりこ}伯子氏（持永只仁長女）

■7月15日（土）心理学から見た持永只仁作品

横田正夫氏（日本大学文理学部教授、日本アニメーション学会前会長）

■9月2日（土）日本アニメーション映画史の中の持永只仁

おかだえみこ氏（アニメーション研究家）



持永の制作ノート
「アニメーションの仕事1」（1957-1962年）

展覧会の関連企画

* 詳細は後日上映プログラム、ホームページなどでお知らせいたします。

企画上映

人形アニメーション作家 持永只仁

会期：7月22日（土）～7月23日（日）

会場：フィルムセンター小ホール（地下1階）

■開催概要

展覧会名	人形アニメーション作家 持永只仁 Tadahito Mochinaga, Puppet Animation Filmmaker
	主催：東京国立近代美術館フィルムセンター 協力：一般社団法人日本動画協会、日本アニメーション学会、日本アニメーション協会 特別協力：北京電影学院 企画協力：木村智哉（アニメーション史研究、明治学院大学非常勤講師）
会期	2017年5月13日（土）—9月10日（日）※月曜日は休室です
開室時間	午前11時—午後6時30分（入室は午後6時まで）
会場	東京国立近代美術館フィルムセンター 7階展示室
アクセス	東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目下車、出口7より徒歩5分 JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分
料金	一般250円（200円）／大学生・シニア130円（60円）／高校生以下及び18歳未満、障害者（付添者は原則1名まで）、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料 ※平成29年度より観覧料を変更いたします。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。 *料金は常設の「NFCコレクションでみる 日本映画の歴史」の入場料を含みます。 *（ ）内は20名以上の団体料金です。 *学生、シニア（65歳以上）、障害者、キャンパスメンバーズの方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。 *フィルムセンターの上映企画をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。 *2017年5月18日（木）は、「国際博物館の日」（毎年5月18日）を記念して展示を無料でご覧いただけます。
お問合せ	03-5777-8600（ハローダイヤル）
HP	http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/mochinaga/
トークイベント	■ 5月27日（土）持永只仁—その国際性 ■ 7月15日（土）心理学から見た持永只仁作品 ■ 9月2日（土）日本アニメーション映画史の中の持永只仁
特別イベント	★8月12日（土）14時～ 中国のアニメーションと持永只仁 ゲスト：孫立軍氏（北京電影学院副院長）、 李剣平氏（北京電影学院动画学院院长） 聞き手：小出正志氏（東京造形大学教授、日本アニメーション学会会長） 和田敏克氏（東京造形大学准教授、アニメーション作家）
関連企画	<u>上映</u> 人形アニメーション作家 持永只仁 7月22日（土）～7月23日（日） 会場：フィルムセンター小ホール（地下1階）

【企画に関するお問合せ】

東京国立近代美術館フィルムセンター 事業推進室 広報担当

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 nfc-pr@momat.go.jp

※記事掲載の問い合わせ先は、TEL:03-5777-8600（ハローダイヤル）をご使用ください

■ 送付先：東京国立近代美術館フィルムセンター 広報担当行 ■

FAX：03-3561-0830 メール：nfc-pr@momat.go.jp

「人形アニメーション作家 持永只仁」

広報用画像&読者プレゼント招待券申込書

* 貸出を希望される画像の□にチェックをつけてください。



①『ちびくろ・さんぼのとらたいじ』
(1956年)より



②『少年と子だぬき』
(1992年)より



③『ルドルフ 赤鼻のトナカイ』
(1964年)より



④『瓜子姫とあまのじゃく』
(1956年)より



⑤『王さまになったきつね』
(1959年)より



⑥『ぶんぶくちやがま』
(1958年)より



⑦『ふしぎな太鼓』
(1957年)より



⑧『ペンギンぼうや ルルとキキ』(1958年)より



⑨持永の制作ノート「アニメーションの仕事1」(1957-1962年)



⑩持永による北京電影学院「動画講義」テキスト(1985年)



⑪『ちびくろ・さんぼのとらたいじ』演出中の持永



⑫持永只仁

読者プレゼント招待券

組 名 (合計 枚) 希望します

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。4. 原則として部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。6. 掲載紙(誌)は、1部、広報担当宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。*画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。*掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

画像データ貸出希望日時 | 月 日 時頃までに希望

お名前： _____ ご所属・媒体名： _____

出版物・放送番組名： _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____